

(プレス・リリース)

日本政府、サルテネハス・テクノロジーパーク協会に6.6万米ドル供与

2017年10月16日、午後2時、バルガス州ラ・グアイラの国立シモン・ボリバル大学サルテネハス・テクノロジーパーク協会に於いて、岡田憲治在ベネズエラ・ボリバル共和国日本国大使が出席し、日本政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力プログラムを通じて贈与された6.6万米ドルの資金を活用した「カカオ品質管理センター建設計画」の引渡し式が行われました。

サルテネハス・テクノロジーパーク協会は、1992年に設立された専門家により運営されている組織で、イノベーションと競争力の文化の醸成を通じた住民の経済力向上と、技術移転とイノベーション分野における公的及び私的機関及び国内外の機関の様々な人々の連携を支援する事を主要な目的としています。日本のこの協力により、同協会は同地域でカカオを栽培する住民の経済力の向上を目的に建設されたセンターを通じて、カカオの品質改善を行う事が可能となります。

この供与式で、岡田憲治日本国大使は、「近い将来、同センターは、カカオの栽培に従事するこの地域の住民の経済を支援しながら、カカオの品質改善に貢献するだろう。ベネズエラは、素晴らしい品質のカカオの生産で世界的に知られており、以前より、チョコレートを製造する大手の国際企業は、ベネズエラのカカオを使用してきた。」と述べました。

日本政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力は、基本的なヘルスケア、基礎教育及び貧困緩和、その他の分野における開発プロジェクトを支援する目的を持った地方公共団体、非政府組織(NGO)、教育機関及び医療機関等向けの無償資金協力です。日本政府は、1999年よりこの協力を続けてきており、今日までにベネズエラの52の団体及び組織等がこの協力を受け、その合計金額は3,660,000米ドルに達しています。



(了)